

令和元年度 福島県立聴覚支援学校平校学校評価アンケートまとめ

【評価者】保護者 6名、教職員 9名

【評価基準】A:とても良い B:良い C:普通 D:悪い

	今年度の取り組み	評価者	評価				○ 取組の様子と考察 ■意見・感想等		
			A	B	C	D			
I-1 自立と社会参加に向けた指導の充実	1 実態に応じたことばの指導を充実させ、人とかかわり合うためのコミュニケーション能力を育成します。	保護者	63%	27%			○言葉ノートや絵日記等を用いた指導を継続して行っていることで、定着が図られていると考える。取組を継続させ、コミュニケーション能力の育成をしていきたい。 ■個々に併せて丁寧に対応していると思う。 ■相手のやり取りを大切にしてくれるので、コミュニケーション能力はとても高まったと思う。成長を感じて嬉しい。		
		教職員	1%	98%	1%				
	2 保護者との連携及び関係機関との連携の際には、必ず「個別の教育指導計画」を活用し、指導支援の経過や合理的配慮を確認し、切れ目のない指導・支援をします。	保護者	83%	17%					
		教職員	22%	78%					
	3 交流及び共同学習の一層の充実を図り、交流校及び交流保育園と合理的配慮を共有することで幼児児童同士が相互理解を深めて、主体的にかかわり合えるように支援をします。	保護者	38%	62%					
		教職員		85%	15%				
	I-2 主体的に思考する力と豊かな心の育成	1 幼児児童一人一人が主体的に思考し、学習に取り組む力を育成します。	保護者	83%	17%				○学期当初に「個別の指導計画」作成・見直しのためのケース会議を実施した。各教員が意見を積極的に出し合えることができ、幼児児童の実態把握を深め、幼児児童に関する実態及び指導に関して共有化が深められた。 ○幼児児童、教職員共に移動図書館等から多くの本を借用しており、活用度は高い。今後は、借用した本をどのように活用していくかが課題である。 ■図書室の整理ができてすっきりした。あづま号をぜひ続けてほしいです。 ○幼稚部では、幼児の興味関心を引き出し、絵や手話等とおしたやりとりにより指導を行ってきた。また小学部においては、授業で獲得した言葉を他教科と関連させながら、言葉のネットワークを意識して指導に当たってきた。今後も継続して丁寧なかかわりにより指導を行っていききたい。
			教職員		100%				
		2 積極的に移動図書館等から本を借り、読書活動を推進し、豊かな心を育てます。	保護者	33%	67%				
教職員			33%	56%	11%				
3 体験的活動を積極的に取り入れ、体験したことを「話す」「書く」「聞く」「読む」等のことばの学習を通して、幼児児童が自ら考え、行動できるような主体性や意欲を育成します。		保護者	75%	25%					
		教職員	33%	67%					

	今年度の取り組み	評価者	評価				○ 取組の様子と考察 ■意見・感想等	
			A	B	C	D		
I-3 一人一人の実態を踏まえた言語力の育成	1 教員は聴覚活用や多様なコミュニケーション能力の向上を図るため、専門研修や実技研修を行い、全職員が専門性の向上を図ります。	保護者	67%	33%			○地域支援部が担当し職員会議後に、「きこえの情報交換」として幼児児童に関する情報共有を行うだけでなく、ミニ手話研修会も実施した。季節の言葉や授業の中で使う言葉を中心に行ってきた。 ○療育センターから耳鼻科の医師に來校していただき、授業参観や情報交換を実施し、幼児児童の「きこえ」の状態やその指導支援についてアドバイスを受ける機会を設定した。	
		教職員		100%				
	2 聴覚保障や情報保障機器、手話や指文字の適切な活用ができるよう教員の研修を行います	保護者	67%	33%			○補聴器や人工内耳の研修会を、メーカーの担当者を招聘して実施した。機器の性能や新技術及び使用上の留意事項や、効果等について確認できた。日々の指導に役立てるようにしていきたい。	
		教職員	22%	78%				
	3 外部の専門家を招聘し、教員自ら課題意識を持って授業研究会を実施し、授業力の向上を目指します。	保護者	33%	67%			○筑波大学附属聴覚特別支援学校や関連の先生方を2名、計3回講師として呼び出して研修を行い専門性を高めるために、授業研究会等に取り組んだ(今年度は東北福祉大学の先生の招聘も予定していたが、災害のため中止とした)。 ■行事も多く、多忙だが、研修を受けるといつも学びがあり、やはり必要だと思う。	
		教職員	33%	67%				
	II 安全で安心な学校づくり	1 教育活動が安全な環境で行われるように、安全点検等を実施し、幼児児童の安全と安心の確保に努めます。	保護者	50%	50%			○毎月、安全点検を実施し、日々の観察で破損等を見つけた折には速やかに報告をするように徹底している。また、管理職は、事務員、用務員と連携し、速やかに対応・修繕をしている。
			教職員	56%	44%			
		2 食育の推進と安全で楽しい学校給食の充実を図ります。	保護者	83%	17%			○給食係が平支援学校の栄養士等と連絡を密にして給食実施に取り組んで来た。また、おかずや食材の名前などを掲示板を利用して幼児児童に知らせた。保護者に対しては、授業参観時に給食試食会を実施することで、理解をいただいている。
教職員			78%	22%				
3 特別活動や道徳教育において、いじめに対する指導を行い、教職員が組織として予防的な対応を行います。		保護者	67%	33%			○いじめを認知できるように、保護者アンケートを実施するとともに、児童が教員と話しができる機会を設定した。特別な週間ではなく、普段からできるようになれば、さらに良い学級経営ができるものと考えられる。	
		教職員	44%	56%				
4 災害発生時の安全の対する意識を持たせるため、防災教育や放射線教育の充実を図ります。		保護者	83%	17%			○避難訓練については、火災だけではなく、今年度10月の水害を想定した訓練を実施し、実体験に基づく訓練を行うことができた。 ○放射線教育については、いわき市の保健師を講師とした出前授業を活用した。放射線を視覚的にとらえることができる桐箱などを活用したり、計測する体験をとおして学習を深めることができた。 ○安全マニュアルの確認をし、次年度も継続していきたい。	
		教職員	56%	44%				

	今年度の取り組み	評価者	評価				○ 取組の様子と考察 ■意見・感想等
			A	B	C	D	
III センター的機能の充実	1 地域の関係機関や保健師等と連携し、0歳からの乳幼児教育相談を行います。	保護者	67%	33%			○いわき市内の地区保健センターを訪問し、「みみらんどいわき」のパンフレット等で啓発活動を行った。また、地区内の聴覚障がい児等の情報交換等も行った。
		教職員	67%	33%			
	2 教育事務所や市町村教育委員会、近隣の特別支援学校と連携し、幼稚園や保育所、学校等に在籍する聴覚障がいのある子どもへの支援を行います。	保護者	83%	17%			○学校支援では、幼稚園、保育所、小中学校、高等学校等、地域の難聴学級や通常学級に在籍している難聴児の相談支援を継続的に行ってきた。教育課程や授業場面での指導、または、校内研修支援など支援も多岐にわたっていた。 ○双葉8町村の教育委員会へも啓発することができた。 ■地域の専門機関とのつながりも広がりを見せていると思います。
		教職員	33%	67%			
	3 地域における聴覚障がい教育の専門機関として学習会や研修会を開催し地域に発信・提供します。	保護者	33%	50%	17%		○保護者や聴覚障がい者を育てているご両親向けの学習会や研修会を企画実施をした。
		教職員	56%	44%			